

二〇〇六年

生活綴り方の先駆者

木村文助年表



訂正

P 2 明治四四 真中村の村を削除
P 4 昭和一〇 日進の進を新に訂正
P 5 昭和一二 々

大野文化財保護研究会

木下寿実夫

木村文助関係年表



年齢	西 暦	年	勤 務 校 ・ 綴 り 方 関 係
	一八七八	明治一一	大野学校開校
	一八八二	一五	秋田県に生まれる
四	一八八六	一九	大野小学校移転
一五	一八九七	三〇	大野小学校現在地へ移転
一八	一九〇〇	三三	六村が大野村に統一
二〇	一九〇二	三五	秋田師範学校卒業。下川沿村川口小学校訓導（教頭）
二二	一九〇四	三七	釈迦内尋常高等小学校訓導（教頭）
二六	一九〇八	四一	大館尋常高等小学校訓導（教頭）
二八	一九一〇	四三	阿仁合尋常高等小学校訓導（教頭）
二九	一九一一	四四	真中村尋常高等小学校訓導兼校長 綴り方教育に専念
三〇	一九一二	大正 元	長谷川天溪の「自然主義」を読み開眼
三一	一九一三	二	トルストイの作品を耽読
三二	一九一四	三	「秋田魁新聞」に「蘆花先生を訪うの記」投稿
三三	一九一五	四	前田尋常高等小学校訓導兼校長 村の青少年を対象に冬期間夜学開設 県より表彰
三四	一九一六	五	大野村に電灯とる
三五	一九一七	六	函館師範学校長（秋田県出身）の招きで同校事務長として来道

三六	一九一八	七	大野尋常高等小学校訓導兼校長（七月） 鈴木三重吉主宰児童雑誌「赤い鳥」月刊誌創刊 本格的な生活綴り方教育の実践
三七	一九一九	八	「同窓会誌」（大野小）発刊 大野農業補習学校訓導兼校長
四〇	一九二二	一一	「赤い鳥」八月号に綴り方応募二千中「櫓」（新栄とよ）第一席に初入選 以後毎号のように大野校入選 木村と鈴木と親交始まる
四一	一九二三	一二	「北海道人名辞書」（北海民論社）に載る
四二	一九二四	一三	「綴方生活 村の子供」発刊（大野小）謄写印刷で木村が編纂し装丁は訓導浪岡五十三が当たる 「赤い鳥」へ自由画初入選「写生」（松代より子）
四三	一九二五	一四	国語夜話会機関紙「国語と人生」に論文発表 「道南児童創作集」（函館毎日新聞）発刊「母を思う」（高田むめ）、「かね」（牧野とせ）、 「焼場の爺さん」（金川つわ）、「本屋で」（平賀隆一）が載る
四四	一九二六	一五	「赤い鳥」へ低学年読み物入選「オマツリ」（浪岡五十三） 大野青年訓練所主事兼任 大野小グラウンド新設、屋内運動場・教室改築 「函館新聞・蕾」に綴り方八点載る 大野村に「十月会館」完成
四五	一九二七	昭和 二	「学校要覧」作成*斬新な経営方針盛られる 「綴方生活 村の子供」（大野小）発刊（東京文園社）
四六	一九二八	三	学校創立五〇周年記念並びに校舎落成記念式 記念帖発行 “大野校長の転任に奇怪な風聞起る”（北海新聞）の記事載る 砂原尋常高等小学校訓導兼校長（六月）

四六	一九二八	三	<p>「童詩感覚」(中本弥三郎) 発行 大野の綴り方多数載る</p> <p>「開扉録」(大淵幸三) 発行 木村の投稿載る</p>
四七	一九二九	四	<p>「村の綴り方」(厚生閣) 発行 「涙」(女)、「櫓」(新栄とよ)、「稲荷祭の日」(富谷千代)、「山の家」(釜沢みつ)、「駅前で」(上田ゆり)、「犬殺し」(女)、「すて犬」(男)、「犬の親」(松田あつ)、「ぬす人」(中村かん)、「けんか」(木村れつ)、「二銭ばば」(佐々木あい)、「父と子」(田山ハツエ)が引用される</p> <p>「赤い鳥」へ大野校綴り方計五九、自由画計三五入選</p> <p>「赤い鳥」休刊</p>
四八	一九三〇	五	<p>「村落児童文選」発行(文園社)</p> <p>「第三期綴方論」発表</p>
四九	一九三一	六	<p>学事視察(東京、大阪、京都、奈良、秋田) 綴り方実践校など訪問</p> <p>「北海道教育」に「村の教育」を連載</p> <p>短編小説「彼女の履歴」(林芙美子)に「山の家」(釜沢みつ)が引用される</p> <p>「赤い鳥」復刊</p> <p>大野村に文化団体「原人社」発足</p>
五〇	一九三二	七	<p>「悩みの修身」発行(厚生閣)「しかられて」(田山みつ)、「私の足」(牧野はる)、自由画で(中村かん)、(池田円蔵)、(川崎新子)、(吉田孫七)の作品が引用される</p> <p>函館放送局開局</p>
五一	一九三三	八	<p>「綴り方生活」(文園社)に一二年まで随時論文発表</p>
五二	一九三四	九	<p>砂原小高等科共同作「漁村職業の全貌」発行</p>
五三	一九三五	一〇	<p>戸井村日進尋常高等小学校訓導兼校長</p>
五四	一九三六	一一	<p>「国語と人生」に綴り方理論を連載</p> <p>鈴木三重吉没「赤い鳥」一九六冊で終刊</p>

西 暦	年	大野関係	その他関連
一九五四	昭和二九		「北海道教育評論」七月号「師父の作文について」掲載（木村不二男）

木村没後の関連年表



五五	一九三七	一二	北海道綴方教育連盟結成 日進小学校退任 *当局の干渉があり退職に追い込まれたと言われる。 北海道茅部郡森町に住む 「北海道教育」に「教育目標一つの転向」発表
五六	一九三八	一三	「鈴木三重吉全集」(岩波) 鈴木から木村への書簡載る 復刊八二年
五七	一九三九	一四	「綴方概論」執筆
五八	一九四〇	一五	「母の綴り方」(修文館) 発刊 長男不二男と共著 「馬鹿はつ子」(男)、「しかられて」(田山みつ)、「子守りのりさ」(富谷千代)、「私の足」(牧野はる)、「ぢぢ」(中村かん)、「夜回り」(金川つわ) が引用される 綴方教育連盟弾圧されるゝ翌年大弾圧
五九	一九四一	一六	札幌昭和中学校(札幌一中の夜間)に赴任
六二	一九四四	一九	退職して森町へ戻る
六三	一九四五	二〇	太平洋戦争終結
七一	一九五三	二八	森町で逝去 「綴方概論」遺稿となる

一九五五	三〇	<p>「北海道教育史」(一九三九年(道教委・道立教育研究所) 各巻の各所に載る)</p> <p>「食パン」(金川重雄)が載る</p>
一九五七	三二	<p>大野村が大野町となる</p>
一九五八	三三	<p>「赤い鳥代表作集」全三巻発刊(小峰書店)「子守のりさ」(富谷千代)載る</p> <p>「実践国語教育」に載る(木村不二男)「夜回り」(金川つわ)、「支那人」(田山みつ)引用される</p>
一九六〇	三五	<p>「北海道教育評論」に「絶対他者を求めて ある新教育徒の生涯」を翌年にかけて連載(木村不二男)</p>
一九六三	三八	<p>「大野町公民館」完成</p>
一九六九	四四	<p>「赤い鳥復刻版」刊行 再刊七九年・昭和五四年(ほるぷ社)</p> <p>「日本新教育百年史」(玉川大)の北海道・東北編に載る</p>
一九七〇	四五	<p>「大野町史」発刊 *大野小学校は赤い鳥の「本山」と紹介</p>
一九七一	四六	<p>「作文と教育」に載る(渡辺公江)</p>
一九七二	四七	<p>「大野町文化財保護研究会」設立</p>
一九七五	五〇	<p>「大野町文化団体協議会」設立</p>
一九八〇	五五	<p>「生活指導研究」に載る</p>
一九八一	五六	<p>「大野町中央公民館」完成</p> <p>「大野町郷土資料室」設置 旧公民館を転用</p> <p>「北海道大百科事典」(北海道新聞)に載る</p> <p>「民教」(道民教)に「生活綴方の開拓者」載る 小田切正</p> <p>大野町民文化祭で「赤い鳥」に載った綴り方数点展示(文保研)</p>
一九八二	五七	<p>「ぶんぼけん」で資料収集開始</p>

一九八三	五八	<p>「日本作文綴方教育史」(国土社・滑川道夫)に載るP二五二―二八四 「焼場の爺さん」(金川つわ)、「母」(高田むめ)、「涙」(女)が引用される</p> <p>「改訂版鈴木三重吉の招待」(教育出版)に木村関連載</p> <p>「函館・道南大事典」(図書刊行会)に載る 須藤隆仙</p>
一九八四	五九	
一九八五	六〇	<p>「綴り方日本一を築いた木村文助校長先生の思い出」(広照寺記念誌・赤井千代) 旧姓富谷</p> <p>「山本鼎先生」(道新・赤井千代)</p>
一九八九	平成元	<p>大野町民文化祭で木村関係資料展実施(文保研)</p>
一九九一	三	
一九九二	四	<p>「民間教育史研究事典」に載る</p> <p>「私のなかの歴史」(道新・木村南生)</p> <p>「ぶんぼけん」設立二〇周年</p> <p>資料収集開始(砂原町史編さん室)</p>
一九九六	八	
一九九七	九	<p>「村の子供」発刊七〇周年記念講演会「赤い鳥と生活綴り方文集村の子供」砂原町史編纂室・荒木恵吾(文保研) 同集録発行</p> <p>同記念資料展実施(文保研)</p> <p>木村没後四五年追悼会行う(森町墓所)</p> <p>「木村文助と村の子供」(函新・木下寿実夫)</p> <p>「日本一の綴り方教育 木村文助校長」(広報おおの)</p>
一九九八	一〇	<p>「大野町勢要覧」(大野町)発行 「大野っ子の作文集、東京で出版される」</p> <p>「箱館昔話」(函館パルス企画)に載る 木下寿実夫</p> <p>「立待岬」(道新・原子修) 〇一年まで八回</p> <p>「大野小で生活つづり方実践」(道新・鈴木孝蔵)</p> <p>「北海道国語教育史の研究―木村文助の場合―」発表(京都佛教大・岡屋昭雄)</p> <p>「木村文助研究―赤い鳥から生活綴方へ―」発表(岡屋昭雄)</p>

一九九八	一〇	<p>「続方言まんだら」連載（秋北新聞・畠山義郎）</p> <p>「木村文助研究―母の綴り方・悩みの修身を中心に―」発表（岡屋昭雄）</p>
一九九九	一一	<p>「村の子供」、「村落児童文選」（コピー本）を大野小へ寄贈（文保研）</p> <p>函館図書館歴史講座「赤い鳥について」（木下寿実夫）</p> <p>「赤い鳥」復刻版全巻購入・町教委へ寄贈（文保研）</p> <p>同展示会・セミナー実施（文保研）</p> <p>「赤い鳥」原本五冊寄贈（七飯町・西村一孝）</p> <p>道南地方郷土史研究者交流の集い（函館文化会）講演（「文芸雑誌『赤い鳥』」に載った大野っ子のつづり方」（木下寿実夫）</p> <p>森町図書館木村文助資料閲覧及び木村家墓へ献花（文保研）</p>
二〇〇〇	一二	<p>「木村文助校長と村の子供」説明板設置（大野町教委）</p> <p>「北海道の児童綴り方名作選」発刊（文芸社・久米道彦）</p> <p>「方言豊かな文集末永く残したい」（道新・木下寿実夫）</p> <p>「赤い鳥と木村文助先生」（道新・木下寿実夫）</p> <p>京都佛教大岡屋昭雄氏町郷土資料室来室</p> <p>講演会「元大野小木村文助校長 村落児童文選」札幌大・原子修（大野町教委）</p> <p>町ホームページに「赤い鳥・木村文助」その他載る</p> <p>郷土資料室へ「赤い鳥・木村文助コーナー」新設（大野町教委）</p> <p>大野町民文化祭で「赤い鳥・綴り方」資料展実施（文保研）</p> <p>「木村文助研究」通信発行一、二号（文保研）</p>
二〇〇一	一三	<p>「木村文助コーナー新設」（道新・木下寿実夫）</p> <p>「大野町の宝 綴り方を後世に」（函新・木下寿実夫）</p> <p>「木村文助の業績を後世に伝えたい」（道新・木下寿実夫）</p> <p>伊達市木村九女氏町郷土資料室（コーナー）来室</p> <p>「砂原町史」発刊 *木村文助の業績が本文、年表、写真集等へ詳細に載る</p>

	二〇〇二	<p>一四</p> <p>「赤い鳥・木村文助コーナー」移設（大野町教委）</p> <p>「大野町郷土史年表」作成（木下寿実夫） 木村・綴り方関係載る</p> <p>講演会「木村文助の人となり」と綴り方教育」岡屋昭雄（文保研） 同集録発行</p> <p>同氏町郷土資料室（コーナー） 来室及び森町図書館へ赴く・木村家墓へ献花</p> <p>「木村文助の業績披露」（道新・木下寿実夫）</p> <p>「大野町」（北海道自治研究）に綴り方関連載る</p> <p>「教育広報おの」（大野町教委）に赤い鳥入選の綴り方と自由画掲載〇六年まで</p> <p>「戦前のつづり方教育の指導者木村文助」（道新・近江幸雄）</p> <p>「木村文助」STVラジオ放送 「稲刈り」（田島たき） 入る</p> <p>「生活綴方における子どもの文章表現の研究」発表（岡屋昭雄）</p> <p>「綴り方教育の先駆木村文助から学ぶ」連載（縣北新聞・畠山義郎）</p> <p>「ぶんぼけん」設立三〇周年</p> <p>「木村文助研究」通信発行五、六号（文保研）</p> <p>「村の綴り方 木村文助の生涯」発刊（無明舎・畠山義郎）「青物売り」（金川つわ）、「マント」（伏見たみ）、「タマシ」（小杉門三）、「食パン」（金川重雄）が引用される</p> <p>「新世紀に蘇る木村文助先生小論」連載（北鹿新聞・高田準平）</p> <p>「村の綴り方―木村文助の生涯―が示唆するもの」連載（秋北新聞・菊池久文）</p> <p>「木村文助の仕事と生涯」発刊（秋田さきがけ・小番績）</p> <p>「木村文助・不二男閲覧用資料」作成（森町図書館）</p> <p>「児童文体の成立―木村文助と赤い鳥―」（鹿児島大・狩野浩二）</p> <p>「木村文助研究」通信発行三、四号（文保研）</p>
二〇〇三	一五	<p>「赤い鳥・木村文助閲覧目録」作成（文保研）</p> <p>「木村文助の生活綴り方の足跡」発表（比良信治）</p> <p>写真集「函館市・亀田郡・上磯郡の百年」（郷土出版）に載る 落合治彦</p> <p>「木村文助の生活綴り方の足跡」発表（比良信治）</p> <p>「木村文助の研究」通信発行五、六号（文保研）</p> <p>「ぶんぼけん」設立三〇周年</p> <p>「木村文助研究」通信発行五、六号（文保研）</p> <p>「木村文助の生活綴り方の足跡」発表（比良信治）</p> <p>写真集「函館市・亀田郡・上磯郡の百年」（郷土出版）に載る 落合治彦</p>

二〇〇三	一五	<p>STVラジオ放送集「続々ほっかいどう百年物語」発刊（中西出版）に木村文助掲載</p> <p>「生活綴り方指導者木村文助」（道文保協・木下寿実夫）</p> <p>「木村文助研究」通信発行七、八号（文保研）</p>
二〇〇四	一六	<p>NHK大阪テレビ局来町綴り方関係ビデオ撮り</p> <p>苫小牧市木村明氏郷土資料室（コーナー）来室</p> <p>「新村の子供」（マルメロの木）発行（文保研）</p> <p>「木村文助・不二男親子文学展」（森町図書館）</p> <p>「木村文助研究」通信発行九、一〇号（特集号）（文保研）</p>
二〇〇五	一七	<p>「木村文助・不二男親子文学展」見学（文保研）</p> <p>「赤い鳥・木村文助コーナー」リニューアル（大野町教委）</p> <p>北海道教育大函館校浅利政俊氏町郷土資料室（コーナー）来室</p> <p>北海道教育大岩見沢校新田和幸氏町郷土資料室（コーナー）来室</p> <p>「つづり方のすすめ」（道新・八木橋直弘）</p> <p>「木村文助研究」通信発行一一、一二号（文保研）</p> <p>「ぶんぽけん」が「神山茂賞」受賞（函館文化会）</p>
二〇〇六	一八	<p>大野町と上磯町との合併で「北斗市」となる</p> <p>川崎市志村章子氏北斗市郷土資料館（コーナー）来館 同氏森町図書館へ赴く・木村家墓へ献花</p> <p>「北海道生活綴り方の先駆者木村文助の実践」発表（札幌小・松野萌）</p> <p>東京農大榎本隆充氏、朝日新聞社高成田享氏北斗市郷土資料館（コーナー）来館</p> <p>「新大野町史」発刊（北斗市）*通史、教育、文化（財）、人物、年表等の各所に掲載</p> <p>「児童雑誌展」（函館図書館）に赤い鳥・木村文助が紹介される</p> <p>「木村文助研究」通信発行一三号（文保研）</p>

大野小学校『赤い鳥』掲載一覧

☆高…高等科 尋…尋常科

年	号	学年	入選者	掲載別	題名	入選	備考	年	号	学年	入選者	掲載別	題名	入選	備考
大正11年 (1922)	8月	高1	新菜 とよ	綴り方	櫛(大野小初の入選)	賞	村の子供	大正15年 (1926)	5月	高1	奥山吉太郎	自由画	雪	佳作	
	9月	高2	釣谷 くに	〃	兄の病氣	賞	〃		5月	尋5	吉田 孫七	綴り方	死 人	推奨	村の子供
	10月	高2	川口 良子	〃	右の手		〃		6月	尋5	吉田 孫七	自由画	昼休み	推奨	
大正12年 (1923)	1月	高1	為藤 はる	〃	母の死	賞	〃	7月	高2	斎藤 きえ	綴り方	私のおもひ	推奨	村の子供	
	4月	高1	村本 金彌	〃	酒のみ		〃	7月	尋5	伏見 馨	自由画	観音山	佳作		
	6月	高1	寺田 ちよ	〃	妹の靴		〃	8月	高2	立花 忠勝	〃	風 景	佳作		
	11月	高2	中村 とく	〃	兎盗人	賞	〃	9月	尋6	角田 五郎	〃	嫂さん	推奨		
大正13年 (1924)	1月	高1	金川 つわ	〃	夜廻り	賞	〃	10月	高2	富谷 千代	〃	田 植	推奨		
	1月	高1	大村 いち	〃	母	賞	〃	10月	高1	斎藤 京	〃	田 植	推奨		
	2月	高2	田島 たき	〃	袖刈り		〃	10月	高2	影井 愛	綴り方	馬車にひかれた子供	佳作	村の子供	
	3月	高1	西谷きくえ	〃	栗盗人	賞	〃	11月	高2	影井 愛	〃	飲んだくれ	佳作	〃	
	5月	高2	安保 さき	〃	父ちや		〃	12月	尋6	吉田 孫七	〃	ある婆さん	推奨	〃	
	6月	高2	田島 たき	〃	身代りの金	賞	〃	12月	先生	浪岡五十三	低年読物	オマツリ	入選		
	7月	尋5	木村 れつ	〃	寺まわり	賞	〃	昭和2年 (1927)	1月	高2	工藤 金	自由画	風 景		
	7月	高2	西谷 菊江	〃	鏡	賞	〃		1月	尋5	釜澤 みつ	〃	風 景	佳作	
	8月	尋2	田山 みつ	〃	おひる	賞	〃		1月	高1	松田 あつ	綴り方	犬の親		
	9月	高2	金川 つわ	〃	焼場の爺さん	賞	〃		3月	尋6	伏見 馨	自由画	風 景		
	10月	尋2	中谷 彦彦	〃	せ み	推奨	〃		3月	尋5	釜澤 みつ	〃	風 景		
	10月	尋5	松代より子	自由画	寫生(口絵写真掲載)	推奨			3月	尋5	田山 みつ	綴り方	納豆賣り	推奨	村落児童文選
11月	高2	若松 きよ	綴り方	酔っぱらい	推奨	村の子供	4月		高2	奥山吉太郎	自由画	北海道の風景			
11月	尋6	野田 正道	自由画	かぶ(口絵写真掲載)	推奨		4月		高2	北島 千代	綴り方	祖 母	推奨	村落児童文選	
12月	高1	高田 むめ	綴り方	母	推奨	村の子供	4月		尋6	吉田 孫七	自由画	雪風景			
大正14年 (1925)	1月	尋3	田山 みつ	〃	支那人	推奨	〃		5月	尋5	中村 かん	〃	植 木	推奨	
	3月	高2	若松 きよ	〃	父	推奨	〃		5月	高2	吉村 きみ	綴り方	大工さん		村落児童文選
	3月	尋6	釜澤 千差	自由画	りんごと葡萄				5月	尋6	吉田 孫七	自由画	みろり	推奨	
	4月		児童と先生の写真		大野小学校第二十回當選記念			6月	尋6	吉田 孫七	〃	風 景			
	5月	高1	小林 れん	綴り方	母のかへり	佳作	村の子供	6月	高1	岡村チヨノ	綴り方	豚	佳作	村落児童文選	
	5月	高1	吉田 みつ	〃	乞 食	佳作	〃	7月	高2	池田 いね	〃	支那人の手品	推奨	〃	
	6月	高1	平賀 隆一	※	裏の冬 (自由画大観覧会入選)	4等	絵は載っていない	8月	尋5	釜澤 みつ	自由画	風 景			
	6月	尋6	木下 好	※	冬(自由画大観覧会入選)	入選	絵は載っていない	8月	尋4	中村 かん	〃	少 女			
	7月	高2	若松 きよ	綴り方	歸つた兄の話	推奨	村の子供	8月	高2	白坂喜美男	〃	風 景	推奨		
	8月	高2	小川 勇	自由画	風 景			8月	尋6	釜澤 みつ	綴り方	山の家	推奨		
	8月	尋4	田山 みつ	綴り方	しかられて	推奨	村の子供	9月	尋6	牧野 はる	〃	私の足		村落児童文選	
	8月	尋3	中村 かん	自由画	女の子・米子ちゃん (口絵写真掲載)	推奨		9月	高1	伏見かおる	自由画	風 景			
9月	尋4	小笠原みち	綴り方	さけのみ	佳作	村の子供	10月	尋5	板東 ちえ	〃	新緑の風景				
10月	高2	松原 とも	〃	まる一のお母さん	推奨	〃	10月	高2	吉田 きそ	綴り方	乞 食	佳作	村落児童文選		
10月	高2	小川 勇	自由画	風景(口絵写真掲載)	推奨		11月	尋6	田山 みつ	〃	馬鹿あんこ	佳作	〃		
大正15年 (1926)	1月	尋6	金川 重雄	綴り方	食はん*北海道教育史掲載		村の子供	11月	尋5	南社 太郎	自由画	大 木			
	1月	高2	高田 むめ	〃	父の足	佳作	〃	12月	高2	富谷 千代	綴り方	子守のりさ	推奨	村落児童文選	
	1月	尋5	伏見 馨	自由画	野中の家(口絵写真掲載)	推奨		昭和3年 (1928)	1月	尋6	斎藤百合子	綴り方	おちいさん		〃
	2月	尋6	板東 清司	〃	秋の田			2月	高1	新里すえこ	〃	火 事	佳作	〃	
	2月	高1	中村よしえ	綴り方	兄	佳作	村の子供	3月	尋6	鈴木 君代	〃	川流れ	佳作	〃	
	3月	尋5	吉田 孫七	〃	馬鹿はつ子	推奨	〃	5月	16才	奥山吉太郎	自由画	風 景			
	3月	尋5	吉田 孫七	自由画	校 庭	佳作		6月	高1	川崎 新子	〃	風 景			
	3月	高1	影井 愛	綴り方	豚の子		村の子供	6月	高1	高田 ミセ	綴り方	にはとり		村落児童文選	
	4月	尋4	中村 かん	自由画	肖像	佳作		7月	高2	濱田 サキ	〃	電 話			
	4月	高2	松原 とも	綴り方	どら猫	推奨	村の子供	9月	高1	丸山喜一郎	〃	裏の婆っちゃん	佳作	村落児童文選	
								9月	尋6	野田 初夫	自由画	風 景			
								10月	高2	池田 金圓	綴り方	栗ひろひ	佳作	村落児童文選	
昭和4年 (1929)	1月	尋6	富谷ルリ子	綴り方	子 馬	佳作									
昭和11年 (1936)	3月	高1	牧野 はる	〃	蟹(大野小最終入選)										
	10月	日新小 校長	木村 文助		私への影響		鈴木追悼号								
合 計		綴り方59編、自由画35編入選													



「赤い鳥」入選者と先生

※『赤い鳥』は作家鈴木三重吉主宰の児童文芸誌。大正7年7月創刊、昭和4年3月号を發刊して休刊した(大正12年10月、12月号は関東大震災のため發刊していない)。昭和6年1月号より復刊し、昭和11年10月号(鈴木三重吉追悼号)で終刊となった。

※備考欄の『村の子供』は昭和2年、大野小学校が發行(木村文助編著)した大野小児童の綴り方とその評、木村文助の論文が掲載されている。

『村落児童文選』は昭和5年に發行(東京・木村文助編著)された大野小と他校の綴り方を掲載している。

注

「ぶんぼけん」、「文保研」は「大野文化財保護研究会」の略称

「道新」は「北海道新聞社」

「函新」は「函館新聞社」

二〇〇六年三月一日、大野町と上磯町との合併に伴い「大野町郷土資料室」は「北斗市郷土資料館」に改称された。

◎木村文助年表は一九九八年に砂原町史編纂室・荒木恵吾氏作成の年表を参考にして作った。その後の活動、大野へ届いた出版や投稿等を盛り改めて作成した。

◎資料を寄せられて方々に感謝申し上げます。不備が多々あると思われるがご容赦いただきたい。更なるご教示をお待ちしている。

◎北斗市郷土資料館（赤い鳥・木村文助コーナー）への来館を期待している

◎この年表が木村文助研究や資料の掘り起こしに活用できれば幸いです。

◎二〇〇七年は木村没後五五年、木村編纂の「村の子供」（文園社）発刊八〇周年に当たる。

二〇〇六年九月 日発行

〇四一―一二〇一

北海道北斗市本町六八

木 下 寿実夫

